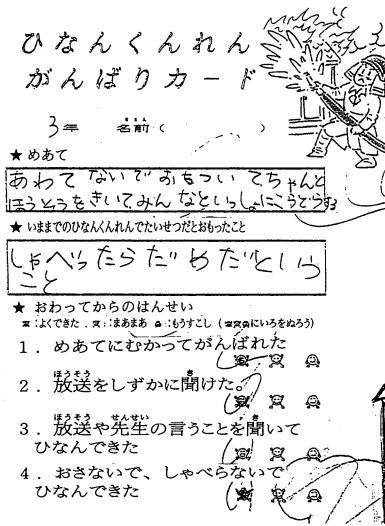


資料3 がんばりカード



①「檜枝岐のよい子」
の実践
②「大きくなる木」
の実践
③「よい子の手帳」
の実践
④考 察（省略）
⑤道徳の時間を通して
した学校と家庭・
地域社会との連携
⑥道徳の時間の授業

(2) 少人数学級の特性である個を生かす実態把握を全教育活動の中で実施し、それを指導案の中に具体的に位置付けてきたことにより、一人一人のよさなどの実態をとらえられるようになり、授業の中に「求める児童の姿」として生かすことができるようになった。

(2) 児童一人一人が、1時間の中の変化に気づき、満足して終われるようにつぶやきを大切にした発問・支援の工夫が今後一層必要である。

(3) 児童一人一人のよさを生かし伸びるという面から、今後一層、道徳の時間も含め総合道徳学習という広い中での評価を工夫していく必要がある。

(1) より具体的な総合道徳学習の全體的な指導計画を作成し、総合道徳学習の中で自ら課題を持ち、主体的に学習活動に取り組むことにより自己実現が図れる道徳学習（児童がつくる道徳学習）のプログラムを作成していく必要がある。

(2) 児童一人一人が、1時間の道徳の時間の中で少しでも心の中の変化に気づき、満足して終わるようにつぶやきを大切にした発問・支援の工夫が今後一層必要である。

(3) 児童一人一人のよさを生かし伸

(5) 少人数学級における個を生かした道徳の時間の指導のあり方

① 指導の実際

ア 『児童一人一人のよさなどの実態をとらえた日常生活の観察から』イ 『個に応じた指導を行うために求める児童の姿として位置付けた指導過程』

② 考 察

総合道徳学習という一連の学習を

(6) 学年差を考慮した道徳の時間の
くなつた。

通して、個を生かす実態把握、個に
応じたねらいの設定「求める児童の
姿」としての個に応じた指導などを
進めてきた結果、その場その場でど
の子のどんな支援を行えばより主体
的に取り組むか、また、一人一人を
見つめた一連の指導を通して児童は
どう変容していくかがとらえやす
くなつた。

参観 ②道徳・学級だよりの発行 ③考 察 6、研究の成果と今後の課題 (省略)

〔3〕 「自分を見つめる」場の設定として、道徳の時間においては、指導過程の中に3つの場面において位置付けた授業を進めてきた結果多様な見方や考え方につれる中、それぞれの実態に応じ今まで以上に主体的に自分の価値観や考え方を見つめることができるようになってきた。